



## ～展示エリアのご紹介～

小笠原農業センターは試験研究施設でありながら、小笠原固有植物や特産果樹などの展示を行う展示エリアを保有しています。今回は新設エリアとともに展示エリア全体をご紹介します。

### 1.ヤシ園

大小様々なヤシが立ち並ぶヤシエリア。大きなハウオウボクが目立ちます(図1)。



図1

### 2.硫黄島展示園

硫黄島に関係する植物を展示しています。戦前の名産品だったサトウキビやレモングラスなどがみられます(図2)。



図2

### 3.かんきつ・コーヒー園

この3月に新しく公開したエリアです。小笠原オレンジ、カラマンシー、コーヒーの栽培株が見られます。小笠原では2025年にコーヒー生産部会が設立され、生産に力が入っています。普段、コーヒーを飲むだけの方は一度ご覧あれ(図3)。



図3

### 4.自生種園

農業センターでは自生種の保護・増殖を目的とした研究を行っており、その一部を公開しています。自生種というのは小笠原にしかない固有種と、小笠原にも古くからいる広域分布種を合わせた言葉です。特に、ムニンツツジの植栽は一見の価値ありです(図4)。



図4

## 5.展示温室

小笠原特産のパッションフルーツや、カカオ、マンゴー、ジャボチカバなどを展示しています。パッションフルーツに関しては複数の品種を展示しています（図5）。



図5

## 6.展望台

長い上り坂のFコース、上り階段のHコースを進むと、展望台へたどり着きます。2月に行くと満開の寒緋桜を視界に捉えながら二見湾内を眺められます。歩くちょっとした運動ですが、行ってみる価値はあるかも？（図6）。



図6

<ニュース担当：板橋>

※展示エリアの詳細な利用時間、利用方法などは農業センターHPをご覧ください。

<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/O7ogasawara/farm>

### ◎土壌診断実施のお知らせ

効率の良い土作りのため、土の定期診断を受けましょう。野菜では次作の畑の準備をする前、果樹では収穫が終わって施肥をする前がチャンスです。

該当ほ場で作物栽培が終わった時等に、一握り程度の土を5点程度採り、袋等でよく混ぜ合わせ、茶碗1杯程度を試料とします。残りは畑に戻します。

試料はゴミやホコリ等が混ざらない日陰で十分に乾かしてください。乾燥後、土塊を砕き、2mm目の篩（ふるい）を通して提出用封筒に入れご提出ください。

提出用封筒は農協窓口にあります、採取方法を図示してあります。封筒の記入欄（**依頼者名、畑の場所、前作・後作等**）はすべて記入してください。

☆提出先 父島は農協父島支店、母島は農協母島支店です。

農業センターや営農研修所では受け付けておりませんのでご注意ください。

	土壌試料提出期間	診断結果のお知らせ
第1回	5月18日（月）～5月29日（金）	6月中旬
第2回	7月13日（月）～7月24日（金）	8月上旬
第3回	11月24日（火）～11月27日（金）	1月上旬

### ☆問い合わせ先

農協父島支店 04998-2-2935 母島支店 04998-3-2331

## ～令和7年度試験成績概要～

### 1. パッションフルーツの新たな生産体系の確立

#### ●電照平棚仕立てパッションフルーツにおける最適な栽植密度の検討

パッションフルーツの主枝4本電照施設平棚栽培では、慣行の8㎡/樹に比べ4㎡/樹では果実重に差はなかったものの果実数が増加しました。

一方で、4㎡/樹では作業時間が増加し、酸度が高くなる傾向でした。（担当：板橋）

#### ●パッションフルーツにおける育苗用土の違いが生育に与える影響

パッションフルーツの育苗用土として、標準用土および市販用土を用いた場合、いずれも生育は良好でした。標準用土は市販用土に比べ、新梢の伸長が早く、定植適期も早まる傾向であるとわかりました。（担当：板橋）

### 2. 農業センター育成カンキツ品種の栽培技術の確立

#### ●「菊池レモン」及び「小笠原グリーンフラッシュ」の房なり果の特徴

葉果比が20の条件では、露地栽培と施設栽培の「菊池レモン」は、1花序に3果が着生しても、果実品質は変わりません。

露地栽培の「小笠原グリーンフラッシュ」は、1花序に2果が着生すると果汁量と酸度が低下しました。（担当：宮地）

#### ●小笠原オレンジ硫黄島系統」の着果性および果実成熟

「小笠原オレンジ硫黄島系統」は、自然受粉条件下では28%程度着果します。

収穫適期は、果皮が完全に橙色に変化する前(CIELAB表色系 L\*値65以下、a\*値10以下、b\*値65以下程度)の、開花後の積算

気温が7200～7700℃程度の時期です。

（担当：宮地）

### 3. 島内環境保全技術の開発

#### ●東島におけるオオハマギキョウの生育環境および土壌条件

オオハマギキョウは日当たりの環境下でよく生育しますが、日当たりが悪くても開花・結実します。また、土壌pHが7～8でも生育します。自生地土壌は農耕地土壌用の推奨基準で判断するとECは低く、交換性加里や交換性苦土、交換性ナトリウムは高い結果となりました。（担当：板橋）

### 4. アフリカマイマイによる農業被害の抑制方法の検討

#### ●誘引捕獲トラップを用いた防除事業と誘引・捕獲割合の調査

誘引捕獲トラップによるアフリカマイマイ捕獲数は、近隣に農地がある地点で多い傾向となりました。

トラップに誘引された割合は19.2～46.2%、その内侵入した割合は50.0～75.0%でした。（担当：佐々木）

### 5. 野菜・果樹・花き・切葉類の生産性向上

#### ●ミニトマトの有望品種の特性把握

鉄骨ハウスで「ラプリーさくら」「アイラ」と慣行品種の「甘っこ」との特性を比較したところ、裂果率の低さと糖度の高さから「ラプリーさくら」は小笠原における有望品種と考えられました。（担当：直井）



小笠原オレンジの着果の様子

## ～ 着任職員の紹介 ～

### 上澤陽向 研究員

小笠原支庁産業課亜熱帯農業センター  
研究員に4月付で着任いたしました。  
上澤陽向と申します。

令和6年度の10月に入都し、本庁農林  
水産部農業振興課園芸緑化担当におりました。  
入都時はまだ大学院修士課程の途中で、  
この前の3月に無事修了いたしました。  
学生生活を終えて初めて働きます。



上澤陽向(ひなた) 研究員

経験が浅く不慣れですが、小笠原のカンキツ  
研究に少しでも貢献できればと思います。よろしくお願ひいたします。

職場も住居も変わり完全に新しい生活ですが、自分なりに楽しく過ごすつもりです。  
生き物観察が好きなので人生で一度は来てみたかった場所です。ぜひこの機会に小笠原  
ならではの鳥や虫、魚と出会いたいです。  
他にも数多ある趣味を気兼ねなく楽しめそうなので、ここで技術を身に付けていこうと  
思います。まずは指物をやるつもりです。

小笠原ライフと小笠原ワークを充実させて、多くのことを学び、内地に持ち帰る一方、  
小笠原の農業のために何かしら成果を残せればと思います。  
改めて今後ともよろしくお願ひいたします。

### 担当の紹介

令和8年度の農業センターの分担が決まりましたのでお知らせします。所長の北山は  
全体の統括を担当します。佐々木は引き続き病害虫を担当します。直井は引き続きトマ  
トを担当します。板橋は引き続きパッションフルーツと自生種を担当します。上澤はカ  
ンキツ類を担当し、当ニュースの編集も担当します。また、普及指導担当は引き続き蟻  
木となります。ご質問やご要望は各担当者が承りますのでよろしくお願い致します。

### 辞任職員

令和8年4月1日付けで研究員の宮地はスポーツ推進本部スポーツ施設部経営企画課  
(調布市)へ異動となりました。長い間お世話になりました。